令和３年度宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録

○日　　時：令和４年３月１７日（木曜日）　１０時００分から
○会　　場：海の道むなかた館　講義室
○出 席 者：高橋委員、井上委員、升谷委員、松久委員、竹本委員、長友委員、田島委員
　　坂梨委員
【事務局】 西谷、青木、白木、合島、井上

１　あいさつ
○西谷館長：委員の皆様には日頃からご協力いただきましてありがとうございます。当館は、平成 24 年 4 月 28 日に開館し、まもなく 10 周年を迎えます。市民の皆様に愛され親しまれるよう努力してまいりましたが、まだまだ不備なところもございますので、どうぞご意見ご指導をよろしくお願いします。
○事務局井上：今回は新しい委員を迎えての協議会となるので、あらためてこの協議会の位置づけ等について説明します。第７条に、交流館の運営に関し、必要事項を審議するため宗像市郷土文化学習交流館協議会を行うとあります。運営について、むなかた館で開催している事業を中心に皆様の声をいただき、今後の事業の検討に努めていきます。
２　委嘱状の交付
　宗像市郷土文化学習交流館協議会委員名簿【資料１】
○事務局井上：会長と副会長の選出を行いたいと思います。会長に交流館の様々な事業でご助言いただいています松久委員、副会長に当館の地域学芸員の会として活動いただいています升谷委員を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。
○全員：異議なし
○事務局井上：それでは会長に松久委員、副会長に升谷委員、よろしくお願いします。
３　報告事項用
（５）令和３年度文化財保護事業の概要について【資料６】
○事務局井上：
　資料 2
　P2-1　来館者数については、新型コロナ緊急事態宣言中は休館となり、また、まん延防止重点措置の期間もあり、従来に比べて来館者数は減っております。
　その推移については、平成 29 年度の来館者数がピークになっておりますが、今年度はその 3 分の 1 となっています。現時点では 6 万 8 千人の来館者数です。同種の博物館の来館者数を比較いたしましても当館は多い状況です。イベント等を通じて、世界遺産ガイダンス施設である海の道むなかた館に足を運んでいただき、それをきっかけに当世界遺産の価値等をいろいろな方に知っていただくように、努めています。
　P2-2　年度別・一般および団体来館者数の推移は、新型コロナウィルスの感染の関係で団体予約が減り、一般の来館者がほとんどという状況です。内訳をみてみますと市内の小学校・中学校・旅行会社のツアー・その他とかいてありますが、その他については、市外の学校、社員研修、デイサービス等の活用、自治会、子ども会などです。今年度は、このような状況で絶対数は少なくなっていますが、市外より市内からの割合が多いのが特徴となっています。特にオミクロンになりまして学校の休校や学級閉鎖等により予定していた市内の学校も来ることができない状況が一部ありましたが、基本的には、市内の学校はリモートも活用しながらやっていきたいと思います。
　P2-4　体験学習の参加者数について、海の道むなかた館では、まが玉、火おこし、土笛、古銭鋳造､装飾模様スタンプのエコバックなどの体験を土日祝日に開催しています。3-1 は、月別の参加者数です。3-2 で年度別推移を表しています。今年度はその他というものが増えていますが、コロナにより 1 日のイベントは控えるべきだとのこと

があり、11 月 12 月そして今月ですが、春まつり、秋まつりで分散して小規模な体験学習を数多くおこなっています。その関係でその他が多くなっております。これまでと違い新たな呼び込みをして活動の充実をはかってきました。

P2-5　海の道むなかた館の３D シアターが展示室の中にあります。特に沖ノ島には行くことができませんので、沖ノ島がどういうところであるのかをわかりやすく説明する映像という形になっています。現在は、コロナ対策として３D メガネをつけるため、接触を避けるということで、メガネをかけない 2D 映像で対応しています。

ハンズオンレプリカというのは、沖ノ島から出土された鏡のレプリカで、重さや大きさを本物とほぼ同じように製作し、手にとり実際に体感してもらえるよう設置しました。館長講座に関しては、今年度のテーマは「邪馬台国への道」で毎月講座を開催しています。コロナ対策として例年の定数を半分に分け、かつ 2 か月に分けて開催しています。密を避けるということで 2 か月同じ講座をすることにしています。地域学芸員については、まさに海の道むなかた館の顔という形で活動していただいています。展示室での解説、体験学習の指導、市内小学校の世界遺産学習等の指導等をおこなっています。6 は、地域学芸員の延べ人数を表しています。7 は、世界遺産課では、田熊石畑遺跡、愛称いせきんぐ宗像になりますが、こちらも管轄しておりますのでそちらの入園者数となります。

○松久会長：協議会の内容としては、昨年度の実績をよみとり、分析するというところと、それをもとにむなかた館の魅力を最大限に発信するために、どんなアイデアを出していくかという役割を担うのかなと、私なりに解釈しております。今の事務局からの説明に対してご質問をどうぞ。

○長友委員：このカウントとは、どのような手法でされていますか。当社の神宝館は、日計からくる本当の実数で令和 3 年度は約 2 万人です。

○事務局井上：入口にセンサーをつけているので、その人数に一定の指数をかけて来館者数としています。

○長友委員：われわれも今日カウントに入っているということですか。

○事務局井上：はい、カウントさせていただいています。

○松久会長：こちらには図書館機能がありますが、図書館に来られた場合も一緒にカウントするのですか。

○事務局井上：図書館も含めてです。

○松久会長：図書館が 8 割であれば、もっとがんばらないといけませんが感覚的にはどれくらいなのでしょうか。

○事務局井上：2 割くらいが図書館かと思います。むなかた館の来館者数がほぼメインです。

○事務局青木課長：ここの深田分館につきましては、他の市民図書館に比べて歴史とか世界遺産の特設コーナーがあり、どちらかというとこの海の道むなかた館の機能に準じたような書籍を他の市民図書館に比べて置いてあるところがあります。市史の関係も置いてありますのでそのような面では、海の道むなかた館の一機能として連携しながらやっているとご理解いただきたいです。

○事務局井上：

P3-1.1 特別体験学習

コロナの影響で大きなイベントが密になり開催が難しくなりました。昨年度から当館はそういう状況下でもコロナ対策をしながら多くの方に来ていただきたく、小規模のイベントを土日・祝日を中心に、夏休みには夏の課外授業、秋には秋祭り、今月は春祭りと、それぞれ 1 か月間から 2 か月間、モノづくりや歴史や世界遺産に関する体験イベントを開催してきました。各種のイベントにつきまして、本年度は特に世界遺産登録 5 周年プレイベントとして位置づけ、世界遺産を意識しながら行ってまいりました。さつき松原の海岸清掃、世界遺産の灯篭の絵の製作。またカラリズムリサさんのライブイベントは音楽に合わせて、三女神や沖ノ島を絵で体感してもらうものでした。福岡県と宗像市、福津市、宗像大社との保存活用協議会のイベ

ントとして行いましたが、そういうところも活用しながら行いました。また、福岡教育大学には貝殻で作成する写真立て松久委員と、トヨタ自動車九州にもお魚ロボットで、市内事業者の粋工房さんには古代ガラスアクセサリー作りで、ご協力いただき、私共だけではなく、他機関との連携、ご協力いただき事業を行いました。秋祭りも同じように、世界遺産5周年のプレイベントとして2か月行い、体験学習、歴史ウォーキング、ビーチクリーン等を主に行いました。みあれ祭の船づくりは市内の工房くすのき玩具とのコラボレートで行いました。世界遺産市民の会とは、世界遺産を未来へつなぐ活動と連携して事業を行いました。歴史ウォーキングでは、宗像大社と鎮国寺の繋がり、世界遺産というと宗像大社、特に辺津宮を中心に色んな方が来られていますが、鎮国寺との関係が深いことは意外と宗像市民も含めて、知られていないので、ウォーキングしながら勉強しようということで、むなかた歴史観光ボランティアの協力で行いました。ビーチクリーンは11月23日、「いいいさん」と、ごろを合わせて行いました。出張JALお仕事講座は、日本航空と宗像市は企業連携を結んでおりますので、JAL の協力をいただき行いました。今回、門松、しめ飾りをつくろうという新たな体験学習を実施しました。子どもたちが地域の伝統文化を知る機会が減っているので、むなかた館として体験を通じながら、それぞれの意味を再認識しようと、講座を初めて行いました。このイベントは地域学芸員の会が主体として行いました。地域学芸員の会は組織化して、自分たちでいろんな体験学習をやっていこうという流れの第一弾、きっかけとなる取組みでした。また、鎮国寺との連携として、10月19日～12月19日、およそ2か月間、所蔵品をおかりして、展示コーナーの中で企画展を開催しました。世界遺産関連としては海洋プラスチックでキーホルダーづくり、海女ちゃんの蜜蝋ラップづくりのような環境を意識したイベントも実施しました。(3) の春祭りは今月からスタートし、現在進行中です。世界遺産5周年イベントとして体験学習、着付け体験、クリーンツーリズム、等のイベントを実施しております。クリーンツーリズムは、既定の日程を定めず、一定期間3月1日～27日までの間、自分たちで歩き清掃しながら、宗像市大社摂末社等を実際に見たり、清掃しながら、クリーン・清掃とツーリズムをかけてイベントを実施しております。3月19日（土）は赤間の赤馬館で行っている着付け体験をむなかた館で行い、着付けしたあとは観光ボランティアの案内で宗像大社に行き写真を撮る等といういつもとは違う体験をし、いわゆるインスタ映え的な取り組みも行っています。世界遺産の登録の前提となる沖ノ島発掘調査にご尽力していただきました出光佐三の功績を改めて知っていただきたく、出光佐三展の開催をしております。

P3-4.2（1）館長講座

館長講座は今年度、「邪馬台国、および西」ということで65名の受講申込があり、偶数月・奇数月と、２つに分けまして、感染対策をし、密にならないように講座を開催しました。

（2）宗像歴史クラブ

中高生を対象に、見て聞いて体験しながら宗像の歴史を学ぶ講座を開催しています。現在、小学校の５・６年生は世界遺産学習を含め、ほぼ全ての市内の学校は当館に来館しておりますが、中高生は来館する機会が少ないというご意見がありました。その意見から、現在、宗像中学・宗像高校・東海大学付属の高校の歴史クラブ等と協力し、一般公募もして行っています。受講者数は少ない人数で８人となります。今年度はコロナの影響で1･2回を中止。3回から7回の内容での開催となりました。地域を知るということで、池野地区の方に案内をしてもらいながら、地元学的な要素で史跡や仏像やお寺が地域でどういった形で守られてきたのかを調査しました。調査結果は体験学習にて展示しています。第6･7回では遺跡を調べるということで、学校ではできない体験で実際に石碑から拓本をとるといった学芸員が行っている作業を行い、書かれていることについて読み解きまで行いました。

P3-5.3　ミュージアムコンサート

ミュージアムコンサートは展示室の中にステージを設けて行っています。必ずしも歴史や世界遺産に興味がない方々にも、むなかた館に来ていただくきっかけをつくるような趣旨で開催しています。今年度は5回開催しまして、特に第3回につきましては、出張ミュージアムコンサートというかたちで、鎮国寺とのコラボレートで行いました。以上が今年度開催した講座イベントになります。

○松久会長：では今説明いただいた講座、イベントについて何かございますか。
トヨタ自動車はこちらの開館当時から連携が強化されていると思いますが、JAL も宗像市に出向されている方がおられていますが､他にはこの近隣の企業であったり、個人事業者などの連携先がありますか。

○事務局井上：当館と一緒に事業を行っている企業は、ガラスづくりの関係で粋工房さん、今回初めてになりますが、くすのき玩具さんなどです。直営だけでなく、市内で活動されている団体に，例えば、粋工房さんであれば、その後に工房を訪れてもらうような流れを作っていけるようなスタンスで計画しています。

○竹本委員：令和3年度のお話をされていましたが、まだ3月が実施されていませんが、どのくらいの参加者を見積もっていて、実際はどれくらいの参加状況なのかを知りたいです。

○事務局井上：春まつりでみますと、3月21日に三角縁神獣鏡をつくろうなどは、予約と同時にすぐ一杯になる状況でした。一方で、私どものPRが不十分であったのか、ペーパークラフトの馬具杏葉をつくろうは、定員20人に対して5人という状況でした。
3月20日予定しています折り紙で桃・端午の節句を作ろうは、午前、午後で定員20名ですが、午前7人、午後5人と予想していたよりも少ない状況になっています。
内容によってすぐに一杯になる講座と定員に満たないというものが発生しています。

○竹本委員：いろんなことをされているのだとよくわかりました。見込みに対しての実績というものを載せていただくと状況がよくわかるのではないかと思います。あと1点PRについてです。これだけのことをされていますが、私は市報で見たり、宗像市の市民なのでいろんなところで見るのですが、例えばテレビなど、どのくらい情報を発信されているのでしょうか。

○事務局井上：こちらが今回の春まつりですが、今年度より教育委員会の担当になりますので特に子どもにきてもらう形でやっております。市内の小学校全員に配布をしております。併せてむなかた館のフェイスブック、市のフェイスブック、市の広報紙、特に市の広報紙はほぼ一面を使い告知しています。参加人数が少ないイベントにつきましては、直近で宗像市の公式LINE、宗像市のフェイスブックでPRをしております。

○事務局青木課長：このイベントの中には、当然県と福津市と宗像市と宗像大社で構成しています世界遺産保存活用協議会という組織がございます。その関係の事業などもありますので県の記者発表やプレスリリース、新聞社への投げ込みを宗像市は行っております。県にもそのような役割がありますので、一緒になっていろんな形でやっております。ここ2，3年は、コロナの関係で展示室で開催するコンサートになるとせいぜい50人がマックスです。体験学習室で行う場合は、1回に20人がマックスになります。その所要時間も含めて一日に1回なのか2回なのか3回なのかを定員で総枠を決めている感じがあります。どうしても以前より少人数となってしまいます。
テレビを使うよりは、さきほど説明しましたように、子どもたちをターゲットにしながら、学校への一斉配布などをする形で集客を促している現状です。

○松久会長：小学校5年生は、宗像市のすべての小学校が体験学習でこちらを活用されているのでしょうか。

○事務局井上：ほぼほぼこちらに来ております。大島のように学校全体の人数が少ない関係で4.5.6年生が一緒にこちらに来ています。2年続けてくることは、学校側もなかなかできませんので、大島学園の場合は、一定の年度ごとにこちらに来ている状況です。
今年度来ていないのは、コロナの関係で東郷小です。基本的には、全小学校来るよ

うになっております。
○松久会長：それは、市が用意したバスですか。
○事務局井上：学校側が用意したバスできています。
○事務局青木課長：世界遺産に登録された平成29年の翌年の平成30年より世界遺産を学ぶ副読本を作成いたしまして、それから学校のカリキュラムとして世界遺産を核としたふるさと学習に取り組んでいます。その中で5年生というよりは、実際に6年生の方が多いのですが、学校の授業の一環として、こちらにこられることが多いです。実績でいいますと、平成30年度は、25校が来られました。最近は、コロナで来られなかった学校もあり、その分は、出前授業で学校側が来てもらっていいですよということであれば、学習指導員、地域学芸員が学校に出向いて同じような授業をやっているところでございます。今学校が世界遺産、ふるさと学習を学ぶうえで、当館にきていただく、または、当館のスタッフが学校に出向くというこの２つが主にありますが、学校の方では、今GIGAスクール構想といいまして，子どもたちが１台ずつタブレットを持っております。その活用策といたしまして、ここに来れなくてもここのことが学べるという動画を地域学芸員の皆さんの協力で作っているところです。この動画は、うまくいけば、来年度から使用できるのかなと思っています。来れなくても世界遺産学習ができる、来れたとしても事前学習として活用できる、来たあとに振り返り学習として活用できるということで新たなコンテンツで子どもたちの学びをより深めていって、ここに来たいという思いにつなげていければと思っています。
○松久会長：ちなみに中学校の来館の機会はどうですか。
○事務局青木課長：少ないですが、来ています。小中一貫ということで1年から9年生まで、世界遺産ということで、それぞれのテーマがありますので、中学生も高学年になると、学んだことを人に伝えるという役割がカリキュラムに取り組まれています。その一環としてこちらに来られるということがございます。
○事務局井上：今年度の実績としては、宗像中学校と中央中学校の2校が来ています。
○松久会長：中学の先生は、働き方改革が進まず、大変忙しい思いをされているが、そういう時にこのような機能がカリキュラムまでを作って、継時的に紹介すると、現場の先生は、あとはどう引率するかとか、その学びにさらに学校独自の特徴で何かを加えるとかで済んだりするので助かると思いますが、そういうカリキュラムをいくつか用意されているのですか。
○事務局青木課長：おっしゃるとおりで先生が、なにもかにもするのではなく、その時間はこちらにお任せしていただければ、子ともたちは、お預かりしますので、というスタンスで関わりを持たせていただいております。学校との調整となりますと、授業の中で学校のこういうことを行いたいという思いもありますので、こちらの学習指導員と担当の先生と打合せを行い、しっかりと展開していくという状況です。
○坂梨委員：今年より参加をさせていただいております。むなかた歴史観光ボランティアの会に所属しています。どうぞよろしくお願いします。クリーンツーリズムについてご質問させていただきたいと思います。前回こちらに参加させていただきましたが、参加人数が少ない気がしますが、実績としてはどのようになっていますか。
○事務局合島主幹：実証実験的に本年度からはじめてみたというところ、それからクリーンツーリズムという名称から馴染みがございませんので、オフィシャルとしてご参加が 15名、あとはパンフレットを作っていますので、自由にマップを見ながらまわられた方で海の道むなかた館に寄らずにいた方は、数は把握できておりません。今後は、検証しながら、どうやったら続けていけるのかを考え、また、今後も環境を考えながら、地域をまわっていこうという方策は続けていきたいと思っています。蛇足ですが、私がマップを作成するときに、八つの関連神社の写真をとってまわりました。汚れているところは掃除をしましょうからスタートしたのですが、どこも地域の方にとても大事にされて、守っていらっしゃってきれいです。辺津宮も大事ですが、

そういった生きた信仰が今も息づいているということが、世界遺産の価値のひとつですので、そういったことも感じながら、ぜひ環境を考えながら、地域を回り、伝統を学んでいくということで考えていきたいと思っています。

○坂梨委員：趣旨は、非常に賛同できますし、まわってみて同じようなことを感じさせていただきました。自由にまわるのは結構敷居がたかいので、1,2回でも同じようなイベントをおこなうことでひろがっていくのではないかと思います。

○松久会長：今、自己紹介をしていないことに気づきました。改めておこないましょう。

○事務局井上：委嘱状の話を忘れておりました。申し訳ありません。本来であれば、委嘱状の交付をしなければいけませんが、コロナの関係で机の上に委嘱状を配布させていただいて交付にかえさせていただきたいと思っております。お名前のみで結構なので自己紹介をお願いいたします。高橋先生は学校の卒業式で欠席です。

○井上委員：本年度より玄海中学校に赴任してまいりました井上伸和です。玄海中学校の教頭をしております。よろしくお願いいたします。

○升谷委員：地域学芸員をしております升谷です。観光ボランティアガイドの会にも属しております。よろしくお願いします。

○松久会長：福岡教育大学で絵画その中でも日本画というマニアックなところが専門領域になります。その他、幼、小、中、高と教育にも関心をもっていて、こちらとは長く連携した形でいろんな絵画を中心としたワークショップ、展覧会事業でご一緒させていただいております。よろしくお願いいたします。

○竹本委員：福岡教育大学の竹本と申します。専門は、教育学で教育史です。近年研究しているのが言語教育ですが、文化の学習が非常に重要だと思っておりまして、先日一市民としてこちらの体験学習に参加させていただきました。今回この委員にさせていただき、宗像だからこそ、そして宗像大社にまた来たい、そしてまたここにも来たいという場所になったらいいなとこの 2 年間お話しさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○長友委員：宗像大社の長友と申します。主は神職ですが、事務局として広報部、神宝館の文化局を担当しています。皆様とご一緒することがあれば何なりとご相談、ご一緒にさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○田島委員：地元玄海地区コミュニティの田島と申します。神湊に生まれ育ち、７８年になります。先祖はどうも倭寇海賊のようなところもあるので、あまり勉強しておりませんので、勉強させていただきます。よろしくお願いいたします。

○坂梨委員：むなかた観光ボランティアの会の坂梨と申します。どうぞよろしくお願いします。地域学芸員としても活動しております。いろいろお世話になっております。どうぞよろしくお願いします。

○事務局井上：

(3) 地域学芸員について　P4（資料 4）

1. 地域学芸員の役割

地域学芸員は、海の道むなかた館の顔としてお客様をお迎えし、宗像の世界遺産の歴史価値を伝えていただく、そのような意義を持っております。地域学芸員の役割について新たな委員の方もいらっしゃるので説明させていただきます。市で開催した養成講座を修了したボランティアの解説員です。現在は 79 人登録していまして、だいたい 2 人か 3 人が海の道むなかた館の中でお客様をお迎えしています。具体的な活動は、(1) から（4）までかいています。1 つ目が、海の道むなかた館の展示解説、毎週土日祝日に行っている体験学習の指導、2 つ目は、世界遺産についての解説、3 点目が、学校のふるさと学習、世界遺産学習での指導、支援です。当初は、海の道むなかた館の正規の職員、または学習指導員がふるさと学習や世界遺産学習をおこなっておりましたが、現在は段階的に地域学芸員の皆さんに研修等をおこないながら、今年度から本格的に地域学芸員が主として世界遺産学習の指導、支援をおこなっています。4 点目は、歴史文化に関する市民活動団体等との連携で宗像市世界遺産市民の会というところがご

ざいますが、そこに加盟しながらむなかた館の地域学芸員としての知識を活用して市民の会の中で活躍し、一緒になって宗像の世界遺産学習を皆さんにしていただく取り組みをおこなっています。

2. 地域学芸員の組織化

続いて組織化について説明をします。(2) のイメージ図をご覧ください。地域学芸員は 79 人ですが、それぞれが個人事業主の形で活動されていますが、皆さんの声を反映するとか、声を吸い上げて何かを展開することが難しいという状況がありました。(1) の経緯にありますように令和元年 6 月に地域学芸員研修等検討グループを発足しながら、組織化を見据えて、令和 2 年 11 月に組織化となっています。組織化をすることでイメージ図の中の運営委員会というところで議論をし、現在 6 人の運営委員でやっておりますが、運営委員の中でそれぞれの地域学芸員の声を吸い上げ、それをフィードバックしながら活動し、そしてそれを世界遺産課とキャッチボールしながらこういったことをやろうか、こういったことが必要だというような議論をしながらおこなっています。具体的な事例として、先ほど申し上げました宗像での地域伝統文化の体験学習、門松づくり、しめ縄づくり、そういったものがあった方がいいよねという声がそこから生まれたところもあります。皆さんの意見を吸い上げながら事業、イベント等に反映していく、そうすることで地域学芸員の充実、連携しながら結果として来館者の皆様に満足していただけるようなものを展開していきます。

3. 令和 3 年度の主な活動

(1) 令和 3 年度の活動としましては、展示解説、体験学習の指導にのべ 1539 人の地域学芸員がかかわっております。

(2) 運営委員会で企画し、研修を実施しています。例えば接客研修は、地域学芸員の皆さんは、世界遺産の良さを伝えたい気持ちが強くて、一方的に伝えてしまっているのではないかという声も一部にありました。そうではなく、お客様の気持ち、ニーズを踏まえて、やるべきであるということを学ぶ研修があった方がいいのではないかということで企画をしております。新原・奴山古墳群研修は、むなかた館のなかにジオラマができましたので、古墳を実際に見て、福津市の担当職員から、発掘状況を聞きたいという声から実施しました。

(3) については、さきほど申し上げたとおり、新たな展開をしております。1 つ目がデジタル素材、ギガスクールの動画をつくっています。子どもたちが世界遺産学習でむなかた館にきておりますが、当日だけではなく、事前の勉強、あとでの振り返りに使える手づくりの動画をつくっているところです。今年度中に出来上がり、来年度から宗像市の子どもたちは、それを見る形になります。これは、地域学芸員の皆さんで原稿から全部作り上げました。途中、職員が確認やチェックしながら一緒に作り上げました。2 つ目が門松、しめ飾りづくりなど新たな体験学習のメニューをおこなっています。子どもたちは、地域行事をなかなか知る機会がなくなっているので、節句の意義や意味を勉強する機会をやろうということで、地域学芸員の運営委員会を中心に計画してやっています。3 つ目は、新たな体験学習メニューというところで、子どもたちのニーズにあわせて、体験学習を検討していこうと、プロジェクトチームが立ち上がっています。現在こういった取り組みをしながら、地域学芸員の皆さんのやる気を形にしつつ、来館者の皆さんの満足度を上げていく、いい循環になるような取り組みをおこなっています。

〇松久会長ご質問、ご意見をどうぞ。

〇長友委員：宗像大社の研修などで、いろいろなところでこちらにご案内させていただいておりまして、地域学芸員さんやボランティアガイドの皆さんに助けていただいています。地域学芸員さんとボランティアガイドさんどちらにも所属されている方がどのくらいいらっしゃいますか。半分以上の方がどちらにも所属されているのであれば、１つの組織にすれば、相乗効果があるのではないかと思います。役割が違うのは重々わかっておりますが、この点の現状をおうかがいしたい。

○事務局青木課長：事務局としては、6,7 割ぐらいかと思います。
○坂梨委員：以前会の会員でどのくらい所属しているのかを調べたことがあって、会の会員が 100 人中半分ぐらいじゃないかと思います。
○事務局青木課長：委員の言われるようにガイドに興味がある方というのは、組織を重複される傾向にあるのかなと思います。事務局としては、それをある意味利点として捉えています。１つは、むなかた館の中に観ボラさんも地域学芸員さんも同じスペースで控え室を用意しております。そこでも情報交換できますが、お客様、特に子どもたちの学習の中でまずは、海の道で学んで宗像大社にいかれると聞いています。その時に海の道むなかた館は、地域学芸員さんがお世話をして、大社にいくところまでを連れて行き、その後、観ボラさんにバトンタッチみたいなかたちでお願いしています。そういう時に両方に所属して両方を知っている方がいらっしゃるとバトンタッチもすごくしやすくなるということはよいところではないだろうかと思っています。
○長友委員：双方が接客研修やいろいろな研修をされているので、研修をされるときに双方に声をかけると二重の効果になるのではないかと思いました。
○事務局青木課長：おっしゃるとおりだと思います。世界遺産課では、歴史文化に関する団体がいくつかありますが、その横のつながりを目的に協議会の設立を考えています。同じ研修をやるにしても、皆さんに声をかけていきたいと思っております。実は、県と一緒にやっている保存活用協議会でガイドに関するマニュアルを統一的に作成させていただき、福津のいさば会という団体もそうですし、各ガイドさんにこういう形で皆さんやっていきましょうといったマニュアル本を作成しております。次の展開としては、令和 4 年度もマニュアルをつくるだけではなくて、実際に研修会をやっていこうという動きもありますので、市としての役割、県としての取り組みも合せて、どこへいってもお客様が喜んでいただけるようなスキルをあげていただければと思っております。
○長友委員：ありがとうございます。いつも助けていただいているので引き続きよろしくお願いします。
○松久会長：PR のやり方でこんな PR をおこなったが、うまくいかなかったというのがあれば、そこからスタートした方が次の提案につながりやすいと思います。これまでの協議会ででた継続的に扱っているものでなかなかうまく進められないものがありますか。
○事務局井上：1 点目として週末含めて宗像大社に多くの参拝客が、観光客も含めてきているのに、その流れをむなかた館に引き込めばもっと来館者数も増えるのではないかと。にもかかわらず、そこまで一定の来館数はあるが、宗像大社の参拝者数ほどはない。そこを取り込めるように考えた方がいいのではないかという声が継続的にあります。この取り組みについては、保存活用協議会の中で例えば、10 月のみあれ祭のときに、特に宗像大社に参拝客が来られますので、宗像大社でビンゴカードを配布して、むなかた館でビンゴゲームに参加をすると景品があたりますなどの誘導策を含めて検討をしています。また、お正月から週末までこのあたりは、渋滞するくらい宗像大社の参拝客がいますが、以前はお正月を開館したり、この館が外からみると開館していないとみられることもありますので外に空気でふくらむ子ども向けの遊具をおいたり、イベントカーなどを置いてやっているところですが、来館者の声をききますと、あれだけ渋滞しており、三社参りをしたいので、むなかた館まではなかなか足を運ばないよねといった声があったり、すべてをこちらに誘導する形にはなっていないのかなと思います。ただすべてをこちらに呼び込むことは、無理にしても、なにかしらの誘導策を継続して考えているところです。
○松久会長（松久）：ビンゴやスタンプラリーの効果はどのくらいありますか。
○事務局井上：今手元に資料がないのですが、効果はあります。
○松久会長：効果的なものは、手をかえ、品を替えしながらやっていくということですね。
今は三が日閉館されていますか。
○事務局井上：現在は、閉館しております。
○松久会長：開館すると職員がでてこないといけなくなるのでどちらをとるかは、市の総合的に

判断していけばいいと思いますが、道の神様でもあるので、宗像大社から駐車場が分断する形で芝生の道があるので、そこにマルシェのような小さな屋台のようなものがあったりすると、何をやっているのだろうといかに引き込むかとなってくると、条例の問題もあるので一概にはすすめられないと思いますが、人が行きたくなるようなつなぎ目があったらいいのにとは思っていました。そういうアイデアは今まででてこなかったですか。

○事務局井上：鳥居周辺からここ、併せて道の駅の 3 点として来ていただくような取り組みが中心です。会長が言われた分断された芝生のエリアですが、具体的にどうするのか検討としてはあるのですが、なかなか具体的になっておらず、コロナ前は、芝生広場を活用しながらイベントをしてむなかた館に呼び込むことを検討していましたが、コロナでイベントが難しいので、そこで何か誘導していけるようなものを引き続き検討していかなければいけないと思っています。

○升谷委員：市民の意見として、宗像大社に来ても滞在する時間がわずかです。何年か前は正月も開館しており、獅子舞や振る舞い等のイベントがあり、その時は大社からこちらへのお客さんが来ており滞在時間が長かった。宮地嶽や太宰府にしても、少し滞在できるようなところがあるので。本来ならば鎮国寺との流れを作ればいいと思いますが、川が広すぎるので、今の現状では滞在する場所がないです。せめて、当館が開いていれば丁度良いと思いますが、お正月はスタッフの人数を揃えることも渋滞で出勤する事も大変かと思いますので、その兼ね合いもありますが、あればあって良しと思います。世界遺産の関係でできるかどうかはわかりませんが、市民としては、軽トラックでの野菜売り、魚売り等も良いと思います。

○事務局青木課長：協議会の中では、課題として、来館者数の問題が一番大きかった。世界遺産登録が平成 29 年度の 7 月で、登録前後が一番多い 18 万人となり、年々下がっています。あのころは団体のツアー客が多く連日観光バスが来ている記憶がありますが、これがだんだん個人客となり、数として減っている。館内のアンケートでは、体験学習や展示の内容がマンネリ化してきて、何度も来てもらう事には至らなかった。事務局としては、来館数が減っている分析をしっかりして、色んな講座やイベントを開催していきたい。たとえばこの館に来てもらうための入口として、ミュージアムコンサートをして、音楽を聴きに来たが、世界遺産の展示内容を知ってもらい、次に来ていただく新規のお客さんを獲得するための策を事務局として考えてきました。今年もアンケートをとってみましたところ、今まで 60 代 70 代の方々が全体の 4 割を占めておりましたが、今年は 40 代 50 代の方々が半分以上占めており若くなっている。子ども達をターゲットにした体験学習に保護者の方が連れてくる関係もあり増えてきている。また、今までは、市内と市外の割合が市内が 3 割、市外が 7 割でしたが、今年に限っては市内は 16%、市外が 87%、初めての来館が今までは 22.5%が 38.8%で新規のお客さんが増えてきた傾向にある。その一方で、また来たいと答えたお客さんは 90%を超えていますので、今、新規のお客さんが増えて、そういう思いもあれば、なおさら今の取り組みを継続しながら来館者数を増やしていきたい。来年は、海の道むなかた館が開館 10 周年、世界遺産登録 5 周年を迎えます。マスコミ等もうまく活用させていただきながら、お客さんを呼び込む策を検討していきたいと思います。

○坂梨委員：青木課長のアンケートの結果は実感として感じるところで、数は減っていますが個人の方が市内市外に関わらず来られている。だいたい大社からこちらに来られているかと思いますが、大社からアピールしていくわけでもなく来られるので、その要因を確認していただいて拡大できればもう少し繋がるのではないかと感じています。何かそのあたりの調査はされていますか。

○事務局青木課長：体験学習の申し込みを受ける時に、「何で知りましたか？」と聞き取りをするようにしていますが、来館に関してはございませんので、今のご意見を反映させていただいてそのへんの分析もやっていきたいと思います。また、特に観ボラさんは

宗像大社で案内をされる機会も多いと思いますので、その中で、当館との連携等も模索しながら協力をお願いしたいと思います。商工観光の方もコロナ禍ではありますが、大社でのガイドの設置もまた復活すれば検討していただければと思います。

○坂梨委員：今来られる方の意識も高いと思いますのでいい時期かと思います。

○長友委員：大社側からの意見ですが、お正月に関して言いますと長く滞在してほしいという考えとは逆で、いかに効率よく参っていただくかを考えています。1 月上旬はピークで、中には午後にかけて 5 時間かけてお参りいただく方がおられる中で、鉄道がないのが一番大きく、渋滞緩和も考えてお参りもさっと受けていただくことに力点をおいています。また、神宝館とお参りの割合では、お参りが主で来られてるお客さんが多いので、そういった判断をさせていただいています。別の季節であれば、祈願殿は 4 月中には解体に入る予定になります。横広の三分の一くらいを休憩所の建設を予定しています。神社としては、神社主体での人集めを意識しておりませんが、地域の方がマルシェ等何かやりたい時の活用の場として境内を使っていただきたいと考えております

○事務局青木課長：海の道むなかた館も開館当初は正月も開けておりました。特に三が日、成人の日も含めての連休までは参拝者が非常に多いということで当館の PR で開けておりました。令和 2 年の正月からは閉館しています。理由としては、滞在時間が短くてこちらまで来られないということが実際にありました。トイレ休憩で来られたり、福岡独特の三社参りの文化で、次を急ぐ傾向にあり、市長とも協議をして、令和 2 年より休館させていただきました。また、マルシェの件は議員の方からも提案がありました。過去コロナ前はモノづくり展を開催し、2 日間で 2 千人以上のお客さんが来ており、正面の芝生広場にキッチンカー等を準備してにぎわいづくりをして喜んでいただきました。このような時期ですが少しずつ来館を促すような策をしていきたいと考えています。

○竹本委員：今はコロナ禍でまだ時間がかかるかもしれませんが、全体の来客数も減っている状況ですが、逆にいろんなことができる時期かもしれません。ここは車がないと不便なところです。学校とは十分連携がとれていて子どもには PR されています。しかし、車に乗るのは成人ですので、1 回で終わりではなく、継続してできる体験等、成人向けのアピールをしてほしいです。コロナ禍で今は海外にも行けないしちょっと行ってみようかと入ってみたら、いろんな展示をしており、周りの人にも宣伝したら、行ってみようかというように、目に触れる宣伝をしていただけるとありがたいです。また、1 回来たら終わりというような事にならないようなイベントを増やしていくこともよいと思います。例えば作った作品を見に来る、またはスケッチ大会の展示をするようなイベントを増やすとよいと思います。しめ縄、門松体験は大変よいと思いますので、成人に対するアピールも是非お願いします。

また、この建物の色が宗像大社と合っていない。世界遺産の宗像大社とマッチするような感じがよい。もうちょっと宗像大社とマッチするような感じだと人は動くかもしれないがここは元々そういう場所ではないですよね。せめてもうちょっと、人間というのは見た目ですよね。宗像大社かな？というような、色でも変えるとか。そうすると人がふらっと入るかなと、お金がかかる話ですが。

○事務局青木課長：まず 1 点目、他の方々への宗像大社の PR はおっしゃる通りです。ミュージアムコンサートは毎回楽しみに来られている。新規のお客さんも問い合わせが多いがまだまだ PR が足りないというのはその通りです。そこはしっかりできるようにしたいと思います。2 つ目の建物の話ですが、ここは景観上の問題でして、景観の法律、条例等がありますのですぐにはできない事もあります。見た目ではなく取り組みや大社への誘導とかを含めて来ていただけるようしていきたい。そこも PR の一つだと思います。なかなか扱うのが難しいというのが現状です。

○竹本委員：世界遺産をそこなわず沿う感じのものであれば問題がないじゃないですか。

○事務局青木課長：新しく整備する話になると、景観的にあえば全然問題がないということにな

るのですが、実はこの建物事体がふさわしくないと。世界遺産登録の時もこの議論がありまして、市の中では老朽化を含めて将来的にはこの建物をどうにか考えないといけないという話があります。だから合うように色を変れるというのは着手できない、予定もないのが現状です。

○竹本委員：色を変えるだけでもですか。

○事務局青木課長：はい。

○松久会長：予算が関わる事で昔から私も少し経緯を知っていまして、世界遺産センターが建つと思っていました。実際、場所を福津にする、宗像にするという議論があったと聞いています。予算の問題もあり、世界遺産登録がスムーズに進まなかった。絶対大丈夫だったらどんどん観光政策も進んだと思うのですが、どこまで入れられるか、宗像大社の辺津宮が入らない可能性がありそうだったので、決定まで具体的な内容が進みにくかったと聞いています。大きくは予算の問題ですが、大事なのは、渋滞解消は道を変えてしまえばいいんじゃないですかと。アイデアはたくさんあります。ただそれは検討するところは県レベルになり、そういう意見がありますとして、同じような意見であれば、議員の方や市長に持っていく形をとっていくと、今回はこれを組み合わせられないですかという提案につながるかなと。実現はしなかったですが、私個人的にパブリックコメントで、福岡県の美術館の改築移転の話があって、こちらにと意見を出したが最後まで案として残っていました。県の美術館の改築移転が進めばどちらに決定しても良かったです。太宰府市の九州国立博物館のように、辺鄙なところなんですが参道があって、観光客が来るルートが上手く道でつながって、下で降ろして上で迎えるといった循環ができ来館者数が維持されている。こちらも観光バスが鎮国寺とか道の駅を含めてどのような形で迎えてぽんと降ろしてというようなパッケージをデザインして旅行社に持っていくのか。あるいは地域学習として小中学校に持っていくのかなど色んなバージョンを準備しておかないと話が進んだ時に遅くなる。県立美術館構想も遅かったわけではないが、宗像市はどうですかという時に、市長は「いい案だな」くらいまでの話だったので、誘致する時は政治力が関わってくるので、当初からほぼほぼ予定されていた大濠に落ち着いた。強力な候補地がある時は、しっかりとした案を練らないと持っていかれちゃう。色んなアイデアを出して集約しておいてどちらに提案までしておくか。そうしておかないとどこをいじるからこちらの建物の色の変更くらいはできますかとか。もう１回検討して、妥協策でなくなることはありえると思う。候補としていくつも出しておいて、それを資料として残し、実際に提案する場があればどんどん出すという方が私個人としてはいい流れになると思います。最後に決断するのは別として、前向きな案をいくつもうまく整理して分けておいてもいいかなと思います。

○升谷委員：前向きな提案でよろしいですか。神社前のバス停をどうしてもずらしていただきたいというのが常々ありまして。東郷駅に行く方はいいと思いますが、降りるときはどう考えてももう少し海の道に近い方にしていただかないと。同じ場所なので、バスが停まっている時はどちらにも行けない。今まで事故が起きてないからいいけど、いずれ事故が起きるのではと懸念しております。場所をずらすことは簡単な事だと思うのでこれ提案していただけたらありがたい。

○松久会長：あそこは道が曲がっているので道を直せばいいと。県立美術館を誘致するとなると予算が動くので、実現したら鎮国寺への橋の復活、あるいは鎮国寺の方も提案されていたがあの川を使って船を浮かべて道の駅までというような色んな意見がありました。それを全部つなげていければ。神宝館もそろそろ耐久年数が危ないと思うので、元々が国宝を管理できる形になっていないので、葦津権宮司も言われていましたけど、今は奈良に文化財の修復を依頼していますが、こちらで研究所まで誘致できればとてもいい。県立美術館が国宝を扱える美術館になった時には、九州国立博物館方へ宮地嶽のものがいったように、神宝館のものが移管するのもやぶさかではないというような話まで聞いています。そのような話を具体的に持ち出したら、県立美術館の職員は、

最初は「宗像の田舎にでしょうか」という反応でしたが、大宰府の九州国立博物館は入館者数を誇っている話をすると、今のアイデアをミックスしていくと最後まで残してもらえた。1 個 1 個の意見は、今のバス停でもただの 1 個かもしれないけど、観光地政策とか真っ向造りになおすだけでもだれかがバス会社に発言してもらえたら、つながるかもしれない。1 個にしないで上手くジャンル分けしておいて意見を集約して、保存活用協議会に意見を持ち寄ってもらうとか。議員さんや市長が 1 つのアイデアとして活きていくのではないか。宗像市は学校教育では小中一貫教育に加えて、コミュニティースクールもあり市独自のものになってきています。確実に地域を学ぶ、地域で学ぶようになるので、先ほど言われた GIGA 構想にも関連して動画作ったり。

〇事務局青木課長：あくまでも学校側がそれをセレクトできるスタンスなので、こんな動画ができましたというものです。ここに来てもらうのもいいし、動画で学んでもらうでもいいしということで、コンテンツが 1 つ増えたということです。

〇松久会長：せっかくここに図書館の機能がありここならではの蔵書があるのであれば、調べ学習もここで通常の学校図書館だけでなくこちらに来ることによって、ある程度来館者数が絞られている現状だからこそ、学校単位でフロア全体を使って。一般の来館者は子どものためにその場を譲るようにしてできる事かなと。地域学芸員や職員の解説だけでなく、持っているものの活用の仕方をつなげ、学校では教科横断型を進めなくてはいけなくて、より地域で学ぶ、そして地域を学ぶ事がやりやすい場なのでカリキュラム的なパッケージをいくつか作り学校に提案する。ここは子どもが来ることが多いという前提で僕もワークショップを作る事が多かったが、大人向けのワークショップもどんどん作り、まずは人を呼んで知ってもらうことになれば。無理矢理に宗像のことに絡めなくても思うので、後々に考えていきたいと思っています。学校現場からの要望とかは？

〇井上委員：玄海校区、城山校区といった学校区が宗像には 7 つありますが、それぞれで世界遺産を核としたふるさと学習が進められています。ここの活用を考えると、小学校はどんどん来ていますが、また中学校がここに来ても得られるものがそこまではないんじゃないかと。さらに学んだ実感はないかなと思います。私は世界遺産学習に関わってきましたが、宗像の子どもたちは、福岡や東京、世界にでていく子たちが多い。その子たちに世界遺産学習を教える意味はなにかというと、宗像の価値は千年以上守られているもの、地域の人たちが守っているものはすごく高いと思うので、「君たちはスピーカーだよ」と。色んな所で宗像の価値を広めて、日本中・世界中の人たちが宗像の事を注目して、大事な町になろうと。もし戻って来た時は、ここに残った人と頑張って宗像を盛り上げていこうねと。私は自由ヶ丘、城山、玄海、大島にいたことがありますが、自由ヶ丘や城山の生徒会の子に「将来、宗像に残るの？ほかの所へ出ていくの？」と聞くとほぼ宗像には残りません、都会に出ていきますと。ですが大島や玄海の子に聞くと半分の子がここに残るといいます。その子たちにしっかり宗像の価値を学んで守っていって欲しいし、出ていく子にはスピーカーとして。特に大島の子は地域と文化の中に暮らしているので、信仰や神の子意識がものすごく強いですね。入試の面接指導があり、水産高校を受ける子が「私はこの地で生まれてきた。お父さんが釣ってきた魚はとっても美味しい。私は水産高校で、美味しい食品に加工して売りたい。そんな勉強がしたい。」そんな子が 2 人くらいいるのです。そういった子のために宗像の価値、歴史、特産品など守ってきたものを大事にして盛り上げていくことが必要かと思います。スピーカーになるということはアウトプットですよね。中学生がむなかた館にきて勉強するのにアウトプットできる事はないかなと。ここに来るとインプットはできる。ここで表現して展示して評価してもらうようなことがあれば中学生が来た甲斐はあるし、こんな展示できた、喜んでもらえたとなると宗像を好きになってもらえるかなと思います。例えば 3Dプリンターを置いてもらって、美術や社会科の歴史などで鏡を自分でデザインして、宗像の歴史や特産品を描いて鏡を 3Dプリンターで作り評価してもらう。良く出来たものは別の所で飾ってもらうとかが出来れば、

子どもが活動してここに来ようかなと思います。今中学校がやっている世界遺産学習は、アウトプットが中心です。宗像の良さを英語で表現していて、修学旅行の京都で、英語で作ったパンフレットを配って、「私たちは宗像からきました。こんないい所があります。ここも世界遺産ですが、福岡にも世界遺産があるんです」と紹介しました。良かったらお手紙下さいと。応じてくれた外国の人が葉書を送ってくれる。本校でやっているのは、１年生が鎮国寺に行って、住職さんは仁和寺の偉いかたですよね。子どもたちは知らなくて、教科書に出てくる仁和寺の人が玄海にいるのだとお話を聞きに行って面白いお話をたくさん聞いてきました。その子たちが来年修学旅行で京都に行って、仁和寺に行き学んで帰ってきて、それを地域に返してくれる。体験とアウトプットをさせるようにしています。そういったことを一緒にできたら盛り上がっていくのかなと思います。

○事務局青木課長：まさにその話を合島と話しておりまして、世界遺産学習で中学生にもっと焦点をあてる、アウトプットできる事はないだろうかと。教育員会でもこの話をしてきましたので、また井上先生にもご教示いただければと思っています。

○坂梨委員：中高生の話がでましたが、是非とも福教大の学生さんにも来ていただきたいと思います。一度案内した時に、出光佐三さんが福教大を誘致したという話を知らず残念だったので、ご検討下さい。

○松久会長：福教大では数年前に自校学習を取り入れる話が出ていたのですが、今改革を進めすぎているきらいがありカリキュラムがいっぱいです。特に地元のというと、初等教育が有効ですが時間割の融通がきかない。ボランティアの曜日を決めようとなったのですが実際それが上手く行っておりません。今も新しいカリキュラムに変えようとしているので実際ボランティアの募集の掲示と連携の窓口を作っていますが、学生が歩いていける城山中学校になる。車を持っている子が少ないのと、時間割上の問題で１コマ分のボランティアだけど行き来するのにもう１コマ分がいるのでそういった難しさがあります。むなかた館の連携の窓口も世界遺産課との連携でしょうか。組織も変えていて連携推進室というのが大学ではあります。子ども大学が昨年から始まりましたが、大学と市の組織の悪い所が出て３ヶ月停滞した事実がありました。ですから推進室が窓口なのか。もしくは小さいワーキングをいくつか派生させて実際に動きやすくしましょうと提案をしました。4 月からの組織になるのでどこまで進むかまだ分からない状態です。どちらにボランティアの話をのせていったらいいのか確認をしながら進めていこうと思っています。事務方の所で止まってしまうこともあり、より改善していこうと思います。今言っていただいた鏡のデザインのワークショップがあっても良さそうですし、鎮国寺の話やアウトプットの事も参考になる意見でした。予算の事もありますが実現しそうなことが２つ３つありましたのでそこは控えておいてください。

(4)「神宿る島」宗像沖ノ島と関連遺産群について【資料 5】

○事務局合島主幹：資料 5 に基づきましてご説明いたします。海の道むなかた館が世界遺産のガイダンス施設という位置付けもございますので、若干協議会の所掌事務とは外れる所もありますが、参考資料としてご説明いたします。まず保存活用に係る推進体制ですが、保存活用協議会を中心に保存活用の取り組みにあたっています。これが福岡県、宗像市、福津市と宗像大社で組織をしておりまして、それに国、専門家、顧問から指導を仰ぎながら、事業者代表、地域コミュニティが１つの受け皿として宗像市市民の会を組織しております。各コミュニティの代表者、事業者、青年会議所でこういった取り組みを行っています。ユネスコにこの形で世界遺産の保存活用をしていきますと示しています。昨今ユネスコは地域との連携を重視しておりまして、私共も地域との連携を重要視しています。それから 2 番の保存管理に関する事業、次のページの公開活用に関する事業をやっておりますが、特に保存管理等につきましては、ユネスコからの勧告もございますのでそれに基づいた内容でやっており、

まだまだ謎の多い遺産群でございますので引き続き研究活動をしております。周辺環境を含めた保存管理を続けて行っています。特に開発工事があるときにそれが遺産に影響がないかを重視しながら、登録の抹消ということもほかの事例でありますので、そうならないように、この遺産群がそのまま次世代に引き継がれるようにモニタリングや定点観測を実施しております。続いて公開活用に関する事業についてですが、こちらも保存活用協議会と連携しながらやっております。様々なイベント、公開講座や媒体の制作をしております。具体的に言いますとむなかた館に展示をしている国宝のレプリカ、大型スクリーンを協議会で作製し展示をしています。それから理解促進ですが、世界遺産を核としたふるさと学習による学校への提供、それから守り伝える活動、世界遺産を保存活用する事業の横のつながりを作っていこう。先ほど企業連携の話がでましたが、こちらの方にも PR や清掃活動にご協力いただいた企業や団体の登録をしていただき、世界遺産を守っていますよというプラットフォームを作っているところです。それから世界遺産学習帳を活用した学校教育の支援、体験プログラムやガイド養成などの案内体制の充実強化といった所も協議会を通じてやらせていただいております。これについては観ボラさん、地域学芸員さんをはじめ福津市のボランティアガイドさんも一同に会して研修をしていく。それも長友委員からもご提案いただきましたように一緒にできることは一緒にやっていこう、それぞれ個性を活かすところは個性を活かしていただこうという取り組みを行っているところです。そして最後に世界遺産登録 5 周年ですが、いろんな行事をここでご提示できれば良かったのですが、議会中でございまして予算が成立していないというのが 1 つと、4 月に市長選を控えておりまして、世界遺産登録 5 周年に使える予算というものが市長選後ではないと確定できませんので、具体的な案というものがお示しできません。ただ「世界遺産と美しい海を未来へ」というのをスローガンにして世界の宝を次世代につないでいくということをやっていこうと思っています。5 年を過ぎて見えてきた課題の 1 つが、皆さんの関心度が登録時からは年々下がってきている。また海洋ゴミが年間 800 万トンあると言われていますが、それについての悪影響、景観だけでなくて実際に遺産を傷つけ、世界遺産や伝統を守ってきた漁師さんたちの生業に悪影響があるのでこれらを取り組んでいかないといけないところです。まずは世界遺産を核としたふるさと学習。それから皆さんに世界遺産の事を知っていただくのに教育活動もひとつ。清掃活動を通じて世界遺産を守っていく人の輪を広げていこうという大きな 2 つの輪でこれから令和 4 年度に世界遺産登録 5 周年事業がありますが、打ち上げ花火で終わることなく、5 周年を機に新たなスタートをきる、世界遺産を未来につなげていくことを考えています。読売新聞さんにも言いましたが、沖ノ島にはたくさんのゴミがあると話しました。良い所だけの PR ではなく、課題も含めて注意喚起をしてマスコミに協力、注目いただきながらやっていこうと思います。

(5)令和 3 年度の文化財保護事業の概要について【資料 6】

○事務局白木参事：世界遺産課の白木でございます。時間がございませんので、かいつまんでご説明いたします。文化財保護行政の管理をいうことで、私共文化財係は、埋蔵文化財の事前審査発掘による保護のため、遺跡があるかの確認を 800 件しています。そのうち 3 件、発掘調査を実施したところでございます。それから(2)の特別展・企画展では「海人王国宗像」を開催しています。これについては 13980 人の入館者がありました。あわせて講演会も開催しております。そのほかの企画展・小規模な展示ですが、第二展示室で、「戦争と平和」ということで、10 月に実施しました。今館内の円形の展示ホールの中で、「むなかた歳時記・3 月涅槃会」を開催しております。これは鎮国寺さんからの涅槃図という巨大なお釈迦様が横になっている絵を展示しております。そして、(3)田熊石畑遺跡歴史公園、いせきんぐ宗像と愛称が代わっております。むなかた館は屋内の歴史学習施設、いせきんぐは屋外の歴史学習施設です。1 月末までで、2 万 4 千人ぐらいが来ております。そして、イベントは新

しい取り組みとして、いせきんぐ宗像でいせきんぐ推理クイズといことで、いせきんぐで事件があり犯人を誰だというところで、歴史的な知識と組み合わせて、謎を解くという形です。参加者は 180 組、561名の参加者がいました。最後に新修宗像市史編さんは刊行一覧をご覧ください。現在、海の道むなかた館、平成 5 年 3 月まで進んでおります。来年度はくらし編、さらに6年度は祈りとまつり。そして、新修むなかた史のダイジェクト版という流れになっております。教育文化まちづくりが刊行されましたので、今第 2 展示室でやっております、発掘むなかた 88 年の歩みということで展示しております。

○松久会長： 田熊石畑遺跡もこちらの管轄ですか

○事務局白木参事：はい、そうです。

○松久会長：イベントの 180 組は家族ですか。

○事務局白木参事：家族なり、グループですね。原則、グループ参加のイベントとしましたので、180 組です。

○松久会長： これだけの期間でこれだけの人数がこられるのは、結構な参加者数ですね。寒い中、よく来てくださいましたといった感じです。キッチンカーを出店して新しい魅力もあわせました。SNSに投稿したり、映えるスィーツのお店なんかもありましたので、キッチンカーさんにもファンがついてましたので、そういった方もいらっしゃいました。そういったのをきっかけにどんどん新しいイベントが企画されるといいなあと思います。ほかには 何かご質問なりありますでしょうか。では、用意されていた報告は以上となりますが、そのほかなにか事務局から、皆さんのほうからありますか。では、今回のこういうのがすごく細かい議事録はいらないと思いますが、アウトプットや大人を意識したイベントの企画などいくつかのキーワードがあったかと思いますが、バス停の件などいろいろとそれを箇条書きでいいので議事録をいつもつくられているのでしょうか。

○事務局井上：はい。

○松久会長： 議事録はできるとそういった会等があるかと思いますが。

○事務局井上：郵送で送らせていただいて、確認していただいております。

○松久会長：はい、わかりました。そういう形で確認していただく事と内容をどう有効活用するかをご検討していただいて活用していただきたいと思います。この形の会は公開会だけ、それとも必要に応じてですか。例年はどういった形でしょうか。

○事務局井上：例年、一年に一回開催しておりますので、令和 3 年度は今回となります。

○松久会長：では、そういう予定で進めていこうとは思いますが、5周年と区切りの年となっておりますので、必要となればご連絡いただき、また日程調整等もありえるかと思います。そのような形でイメージしていただければと思います。よろしくお願いいたします。これで交流館協議会は終了とさせていただきたいと思います。

○事務局青木課長：本日は誠にありがとうございました。いろいろなご提案、ご審議いただきありがとうございました。会議の中でありました通り、来年度は世界遺産 5 周年として、海の道むなかた館を開催地としておこなっていきます。しっかりとうけとめてまた、検討協議をして来年度もたくさんのお客さんに来ていただくようにしてしっかり宣伝 PR させていただき、目標を実現していきたいと思いますので、皆さんもどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。